



本宮市商工会 会長
小沼 貞彦 さん

(株)白岩屋商店 代表取締役。
本宮市国土利用計画審議会 副会長。

本宮の地の発展には住民のチカラが必要

本宮は、福島の交通の要衝、物流の基地、生活の基地として発展してきました。工業団地を中心に企業も多く、震災後も進出企業が12社入ってきています。

商店街では、私が小学生の頃まで旧道沿いにあふれていた店々が、約20年前には半分に減ってしまっていました。その後、平成15年～18年の旧道道路拡張で、精肉店や理容店、青果店など店が増えました。

近年では、商店街の人たちが中心となって運営するモットコムもとみやによるFM放送やさまざまなイベント企画を行っています。さらには、子育て支援商業施設「ソレイユもとみや」のオープンなどにぎわいづくりは広がってきています。本宮の地を発展させていくには、官民が協力し、住民の人たちが力を合わせたまちづくりも大切になってくるのではないではないでしょうか。



STEP1

現状と課題

本宮市は、江戸時代に奥州街道の宿場町として栄えた歴史を持ち、古くから交通の要衝とされてきました。現在も、磐越自動車道が交わる郡山ジャンクションに近く、東北自動車道と国道4号が南北に走り、陸の港として発展しています。しかし、その一方で、東西の郊外から中心市街地や駅へのアクセスなど、定住基盤整備などの課題があります。さらには、震災後、安全・安心なまちづくりや人口減対策など、土地利用に対する期待は高まっています。

本宮市の土地利用を考える

市の土地利用の指針とするため、市民の皆さんのご意見などを反映させながら、平成26年3月の市議会の議決を経て、『本宮市国土利用計画』を策定しました。

土地利用目的に応じた区分ごとの規模の目標 単位：ha (%)

区分	平成22年度現在	平成32年度目標	増減
農用地	2,356 (26.8%)	2,288 (26.0%)	▲68 (▲0.8%)
農地	2,338 (26.6%)	2,270 (25.8%)	▲68 (▲0.8%)
採草放牧地	18 (0.2%)	18 (0.2%)	0 (0.0%)
森林	2,702 (30.7%)	2,679 (30.5%)	▲23 (▲0.2%)
原野	25 (0.3%)	25 (0.3%)	0 (0.0%)
水面・河川・水路	312 (3.6%)	312 (3.6%)	0 (0.0%)
道路	952 (10.8%)	962 (10.9%)	10 (0.1%)
宅地	859 (9.8%)	926 (10.5%)	67 (0.7%)
住宅地	424 (4.8%)	452 (5.1%)	28 (0.3%)
工業用地	123 (1.4%)	147 (1.7%)	24 (0.3%)
その他の宅地	312 (3.6%)	327 (3.7%)	15 (0.1%)
その他	1,588 (18.0%)	1,602 (18.2%)	14 (0.2%)
合計	8,794	8,794	-

STEP3

目標と計画

土地使用の目標を
平成22年度を基準に平成32年度までの目標を定め、整備を進めていきます。土地利用の基本構想に基づく各利用区分の目標規模は左表のとおりです。

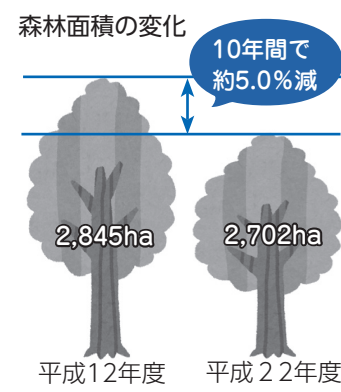
土地使用の目標を

STEP2

今後の方針

今ある土地を守る

豊かな自然を守り、人間活動と自然とが調和した土地利用を考えていきます。農用地は計画的に土地利用を進め、耕作放棄地は普通畑や採草放牧地として有効利用し保全を進めます。また、中心市街地は、快適な生活とにぎわいのあるまち、子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちとして活性化を図ります。



新しい土地利用の創造

恵まれた交通条件を活用し、本宮IC周辺・国道4号などの幹線道路沿いと白沢地区に工業用地を選定し、産業開発を積極的に進めていきます。

また、市街地の住環境整備と民間活力を生かし新たな住宅地造成を計画的に誘導し、定住につながる土地利用を促進します。

震災からの復興

災害に対する地域ごとの特性を考えた「防災」の強化に加え、被災時の被害を最小限に食い止める「減災」をふまえて、地域から市全体のそれぞれの段階で、土地の安全性を総合的に高めるよう取り組みます。

また、土地利用に大きく影響を及ぼす放射性物質については、除染を強力に推進していきます。

地域それぞれに合う計画

市を構成するそれぞれの地域の自然的、社会的、経済的、文化的諸条件を考慮して、5つの地区に分け、それぞれの現況を分析し、計画を立てました。

詳しくは、市のホームページに全文を掲載しています。▼



▲本宮市の自然を守りながら、新たな土地利用を推進します

◆問い合わせ先

政策推進課 政策推進係
(内線218)